

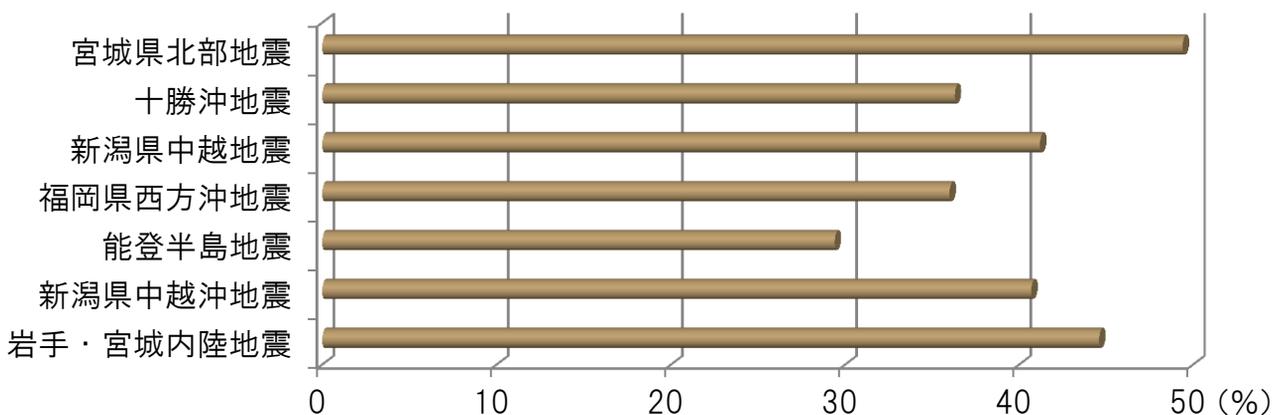
# 地震による家具類の転倒を防止するために



写真提供：神戸市（平成7年阪神・淡路大震災）

平成15年～平成20年に発生した地震では、けが人のうち、30～50%の人が家具類の転倒・落下・移動が原因でけがをされており、多くの被害が発生しております。また、家具の転倒により出入口がふさがれ、閉じ込められる場合もあります。阪神・淡路大震災で甚大な被害があった地域の調査では、家屋の倒壊により亡くなられた方のうち、約1割が家具類の転倒が原因によるものという推計結果も示されています。

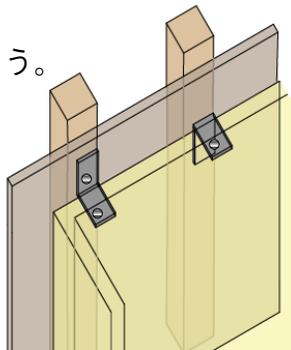
府内には多くの活断層があり、最大で震度7の揺れが予想されています。地震による被害を減らすために、家具類の転倒を防止するための対策を進めていきましょう。



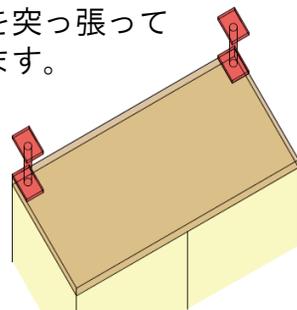
H15～H20年に発生した地震における家具類の転倒・落下・移動が原因のけが人の割合（東京消防庁）

# 家具類の固定や滑り止め等の対策

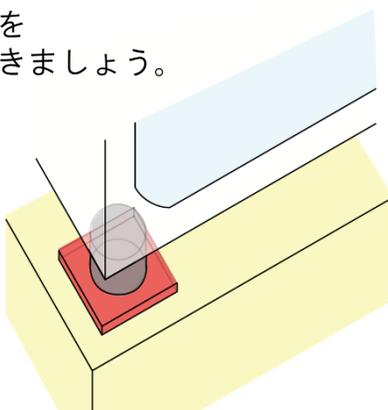
- 壁や柱に金物等で家具類を固定しましょう。



- 壁や柱にネジ止めできない場合、天井との間にポールを突っ張って固定する方法もあります。



- 滑り止めシートを家具類の下に敷きましょう。



- 落下防止ストッパーを設置しましょう。

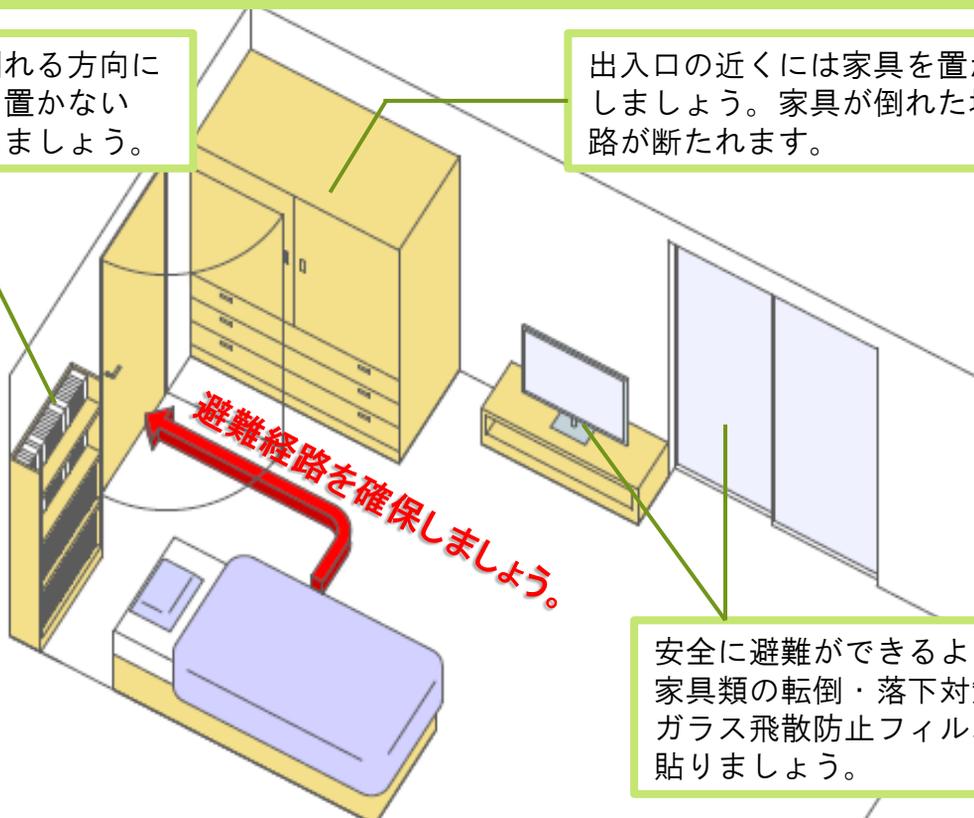


# 安全な場所に家具類を配置

寝る場所、座る場所、避難経路に家具類が倒れてこないか確認しましょう。

家具が倒れる方向にベッドを置かないようにしましょう。

出入口の近くには家具を置かないようにしましょう。家具が倒れた場合、避難経路が断たれます。



安全に避難ができるように家具類の転倒・落下対策やガラス飛散防止フィルムを貼りましょう。